

[様式11]

(対象事業：地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：七夕人形コレクション重要有形民俗文化財指定50周年記念特別展「七夕と人形」

事業者名：松本市立博物館

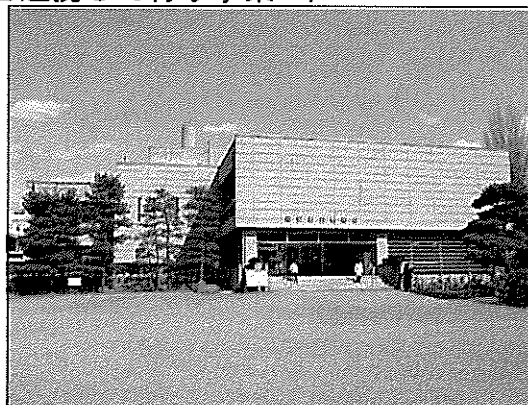
連携事業館名：松本市立博物館各附属施設（旧開智学校・市立考古博物館・窪田空穂記念館・馬場家住宅・歴史の里）、松本市商店街組合、中心市街各町会

住所：松本市丸の内4番1号

TEL：0263-32-0133

FAX：0263-32-8974

HPアドレス：<http://www.city.matsumoto.nagano.jp>



①施設概要

松本市立博物館は明治39年9月21日開設の明治三十七、八年戦役記念館を前身とし、松本市の博物館の中核として総合博物館として歩んできた。現在、重要文化財旧開智学校ほか15の附属施設を抱え、「松本まるごと博物館構想」の下、歴史・民俗を基軸に松本市の基幹博物館として新たな一歩を踏み出している。

②事業の意図目的

松本の伝統的行事のひとつとして、かつて月遅れの七夕には民家の軒先に男女一對の七夕人形が飾られた。

当館が所蔵する重要有形民俗文化財七夕人形コレクションが指定50周年を迎えたのを機に、全国との比較から松本の七夕の特色を浮き彫りにする特別展、中心市街地での七夕人形のある風景の再現を通して、博物館と地域が一体となって松本の地域文化を見直し、その継承を図ることを目的に事業を実施した。

③事業概要

博物館では、松本市立博物館での「七夕と人形」展を中心に、附属施設旧開智学校の「子どもたちと七夕」展、同松本市時計博物館の「商家の七夕」展、同松本市立考古博物館の「いにしへの信仰」展、同馬場家住宅の「七夕の縁側」風景展示を実施、関連行事として石沢誠司氏による講演会「七夕と人形」、七夕人形作り講座、織姫体験講座、糸魚川市根知谷の七夕綱を訪ねる見学会、七夕の伝統色であるほうとうの食体験講座などの事業を開催した。また、特別展の開催に合わせ、地元出版社の協力により解説書『七夕と人形』を刊行し、市内の書店で販売とPRに努めた。

地域では本町、大名町、緑町を中心に、松本の目抜き通りの商店の協力により、特別展開催期間中、店頭での七夕人形飾り、大名町空き店舗での七夕風景再現展示、大名町通りでの七夕人形PR看板の設置を行った。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ()

作成した報告書等

ビデオ ()

冊子 (松本市立博物館編・郷土出版社刊『七夕と人形』) ()

その他 ()

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 20,404 人

内 訳 特別展観覧（全館）19,461人、講座・講演会参加（全館）943人

(1) 事業の実施状況について

この事業では、市立博物館と各附属施設が「2005 まる博七夕コラボレーション」として七夕を共通テーマに特別展・企画展、講座等の開催を行った。

ア 特別展・企画展開催事業

今回開催した特別展・企画展は次の通りである。

「七夕と人形」展	会場：松本市立博物館
「子どもたちと七夕」展	重要文化財旧開智学校
「いにしへの信仰」展	松本市立考古博物館
「七夕の縁側」風景展示	重要文化財馬場家住宅
「商家の七夕」展	松本市時計博物館

※期間は7月23日（「子どもたちと七夕」のみ8月12日）～8月28日

市立博物館では指定 50 周年を迎えた館所蔵重要有形民俗文化財七夕人形コレクション 45 点と松本の七夕行事の紹介に加え、全国に残る人形をとまなう七夕行事として、青森ねぶた、仙台七夕、山梨のオルスイさん、新潟県中条町の七夕舟、同糸魚川市根知谷の七夕綱、富山県黒部市尾山のアネサマ、同滑川市のネブタ流し、京都の七夕さん、兵庫県西南部の七夕さんの着物、熊本県南部の七夕綱を実資料や模型を交えて紹介し、松本の七夕を考える参考とした。



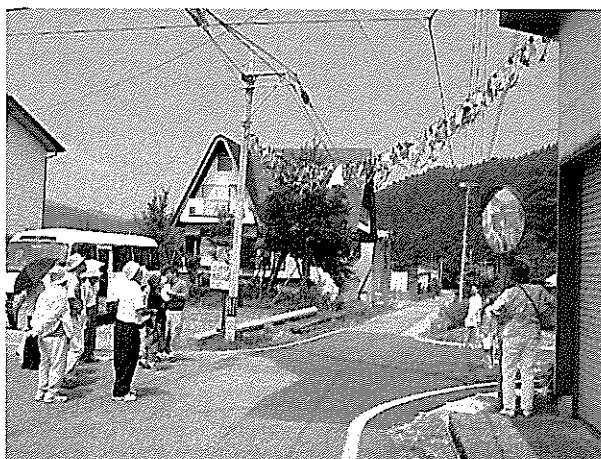
『七夕と人形』展会場風景

そのほかの施設での展示では、各施設の分野にあわせて、子どもたちや学校と七夕との関わり、城下町の商家に伝わる七夕人形と人形店での制作の実態、古民家を利用した七夕風景の演出などに取り組んだ。

イ 特別展関連事業

記念講演会として、石沢誠司氏による「七夕と人形」を市立博物館において開催した。

関連の講座として、人形作り、七夕の食文化体験、染織体験を通じ松本の七夕を体感する企画に取り組んだ。具体的には、市立博物館・馬場家住宅での「七夕人形作り講座」「ほうとうと七夕飾り」、歴史の里・窪田空穂記念館での「織姫体験講座」、窪田空穂記念館での「七夕の調べ」を開催した。また、周辺地域の七夕行事を訪ねて、新潟県糸魚川市の根知谷に伝わる七夕綱の見学会を実施した。



糸魚川市根知谷の七夕綱見学会

博物館の友の会組織である「松本まると博物館友の会」では、七夕に先立つ 7 月 30 日に「井戸端ムダッパナシ」伝えていきたい「たなばた」風物詩」と題する座談会を行い、七夕などの地域の伝統行事を継承する必要性を訴えた。

ウ 地域との連携事業

博物館での展示・講座等開催事業とともに、本事業のもう一つの核となる事業として、地域の協力により市街地での七夕人形のある風景の再現などに取り組んだ。

具体的には次項に示すとおり、「七夕人形のある風景」を中心に、市街地での七夕風景出張展示、PR看板の設置等を特別展開催期間に併せて実施した。



「七夕人形のある風景」(大名町通り)

(2) 地域との連携について

中心市街地に七夕人形のある風景を再現する試みとして、「七夕人形のある風景」と題し、松本市商店街連盟および各地区の町会にショーウィンドウ等への七夕人形の掲示を協力要請した。そのために当館では 100 組の七夕人形を準備し、人形を所有していない商店等に配布した。

松本の中心市街地では、かねてから地元商店街や住民らが中心となって市街地活性化へのさまざまな取り組みが行われ、松本の伝統行事である「ぼんぼん」をヒントにした現代的な夏祭りである「松本ぼんぼん」や、戦国時代に起源をなす飴市(塩市)を再興した「松本あめ市」などの行事を定着させてきた。

七夕については、昭和 50 年代より、緑町の住民らが主体となって「緑町七夕を考える会」を発足し、博物館との協働により七夕行事を学び町に七夕人形のある風景を再現した経緯がある。

こうした、伝統文化を地域再興の鍵として位置付け、住民が主体となってその継承に取り組んできた姿勢が今回の協力にも結びついたといえる。

今回は、松本の中心市街地でも目抜き通りをなす、本町通り、大名町通りをはじめ、伊勢町通り、緑町などで個人商店、コンビニ、銀行など業種の枠を超え、男女一對の七夕人形の飾りつけ、さらに七夕笹飾りつけの協力を得ることができた。

とりわけ七夕については実績のある緑町では率先して自主的な取り組みがなされ、また、七夕人形を製作販売する高砂町通りの人形店(組合)においては、飾り付け用の七夕人形製作について、急な要請にもかか



七夕人形型看板と笹飾り

ならず好意的な協力を得ることができ、同時に七夕人形のある街再現の役も担っていただいた。

大名町では当館で用意した七夕人形型のPR看板について、商店街が保有する街灯 31 基への掲示について協力を得、一方で通りに面した空きビルショーケースへの七夕風景展示の要請を受け、博物館では七夕人形とほうとうなどの供え物、七夕笹飾りによる風景展示を実施した。

こうして、本来ならば8月7日を過ぎると片付けられる七夕人形も、当館の特別展の閉幕まで掲示が継続され、並々ならぬ地元の協力を得ることができ成功をおさめた。

(3) 成果物について

この特別展開催に際し、博物館では地元出版社の協力により、解説書として『七夕と人形』（松本市立博物館編・郷土出版社刊・平成 17 年 7 月 23 日発行・A5 判 122 ページ）を刊行、当館と市内を中心とした書店での販売を行った。

この解説書は重要有形民俗文化財七夕人形コレクションのカタログとしての性格を持たせ、コレクションの概要と全 45 点のカラー図版を基軸に、松本の七夕行事と全国に残る人形を有する七夕行事を事例報告し、七夕行事と人形をめぐるいくつかの論考を加えた。

(4) 参加者の反応

①特別展について

ここ数年来、松本市立博物館では特別展開催のひとつの方向として、地域の歴史や文化、身近な暮らしに根付く習慣や行事をテーマにした特別展を志向してきた。平成 13 年度の「鰯のきた道」、14 年度の「夢を乗せて松本に汽車がやってきた」、15 年度の「胡桃沢コレクションⅠー博物館のお宝ってどんなもの?」、そして16年度の「民藝ルネッサンス」「松本の七夕七不思議」がその趣旨に沿ったものである。

今回の特別展はこれら一連の流れのなかでも規模の大きなものとなった。有料観覧ということもあり、観光客主体の常設展示コーナーと比較すれば来館者数は決して多いとはいえず、館独自企画の特別展としては標準的な入りこみにとどまった。しかし、来館者の内訳は圧倒的に松本市とその周辺の住民が多く、期間中に実施した博物館実習生による展示解説にも時間を厭わず熱心に耳を傾ける来館者が目立ち、逆に自らの経験談を寄せていく熱心な見学者が多くみられた。

展示の内容では、他地域の七夕との比較のなかで、人形を飾る松本の七夕行事を浮き彫りにしようとする方向性が好評を得た。各附属施設の展示も、七夕をさまざまな角度から捉える機会として裾野を広げるものとなり、複数の館を巡る見学者もあった。

解説書『七夕と人形』は、松本の七夕についてさらに理解を深めることのできる入門書として市内一般書店でも入手可能としたため、広く七夕行事への関心を喚起するうえで



展示の説明を受ける観覧者

効果的だった。

このように、本特別展の来館者からは、かつて自分たちが体験した身近な行事に対する市民の関心が非常に高いということを、あらためて認識することができ、展示が一定の成果を収めたものと受け止められた。

②市街地での取り組みについて

市街地での七夕人形の展示は、何よりその活動に参加した地域の住民に伝統文化への関心と呼び覚まし、まちづくりの中で伝統行事を受け継ぐ気運を高める効果があったといえる。

また、市街地を回遊する市民や買い物客、観光客らからは街頭の七夕人形に関心が寄せられ、高砂町の人形店には例年になく七夕人形を買い求める市民の姿が目立った。展示の見学を機に長年飾ることなくしまっていた七夕人形を再び飾ったり、子どもの頃の七夕行事を懐かしむ声も博物館や地方紙等に多数寄せられた。



空き店舗での風景展示と観光客

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

松本市が掲げる「松本まるごと博物館」構想は、広大な市域を屋根のないひとつの博物館として、そこにある博物館、文化財、自然、産業などすべてを博物館の展示物と捉えるものである。この広大な博物館はいくつかのエリアからなり、市内に点在する博物館施設がそれぞれの拠点としての機能を担うこととなっている。

松本まるごと博物館の運営にあたっては、博物館・行政と市民の協働が不可欠である。現在、松本市立博物館および各附属施設では、地域や学校との連携、友の会やボランティアグループを通じ協働を試みつつあるが、まだ緒についたばかりである。

今回の事業についても、「松本まるごと博物館」的な見地から、地域との連携、拠点となる博物館施設のネットワーク化のひとつの試みとして取り組んだ。その結果、先にも触れたように、「伝統文化の継承」を鍵とした地域・市民との協働の実践的事例として成功を収めることができた。また、これまでそれぞれの活動に終始していた博物館の活動についても、各館の専門分野からの視点を活かしつつ、共通のテーマでの取り組みが可能であることを認識した。

今回の事業が今後の「松本まるごと博物館」の道筋に一定の方向性を与えたものと考えられよう。次に残された大きな課題としては、こうした協働による取り組みをいかに継続・発展させるかという点にあるものと考えている。